

植物化学調節学会第56回大会のお知らせ

下記のとおり、第56回大会はオンラインにて開催します。本大会の情報は適宜、学会ホームページ掲載とともに、会員向け一斉配信メールでも通知します。

1. 会期：2021年11月13日（土）～14日（日）

- (大会1日目) 午前：開会，一般講演，
午後：一般講演，企業イベント，会員集会
- (大会2日目) 午前：一般講演
午後：一般講演，授賞式・受賞講演，閉会

2. 開催形式：オンライン（Zoom）形式。会期が迫りましたら参加申込を完了された方に、接続先のURL情報等をメールでお知らせします。

3. 参加申込（10月21日までの参加登録と参加費振込の両手続完了が必要）

本大会に参加希望の方は、まず参加登録をお願いします。続いて、参加費振込をお願いします。なお、遠隔での開催となるため、当日の参加申込は受け付けできません。10月21日（木）までの参加登録・参加費振込完了分を持ちまして、参加申込を締め切らせていただきます。

3-1. 参加登録

参加登録は、8月18日（水）より学会ウェブサイトのトップページからアクセスが可能となります。サイトオープンの際は、改めて会員の皆様にその旨を通知します。会員区分に拠らず個人で参加登録をされた場合、登録時にRで始まる参加登録番号が発行されます。本会賛助会員企業ご所属の方が参加招待券をご利用の場合、券面上部に記載されたSで始まる文字列が参加登録番号となります。

3-2. 参加費振込

無料の方以外は下記表に従い、参加費の振込をお願いします。9月30日（木）までに参加登録・参加費振込を完了される方に早期割引を適用します。振込未対応で割引期限を過ぎた場合、割引はありません。本会学生会員の方は、早期割引適用時の参加費を無料とするため対応不要です。雑草学会・農薬学会・応用動物昆虫学会・植物病理学会の各学会員の方は、ご所属学会の会員種別を当会の会員種別に置き換えてご参加いただけます。

振込人欄は、[参加登録番号 姓 名]の要領をお願いします。例[R101 ショクチョウ タロウ]。情報不足により照合できないことがないようにお願いします。振込手数料はご負担下さい。原則、領収書は発行いたしません。また、入金されたものは返却できません。

	8月18日～9月30日 [早期割引]	10月1日～10月21日
	振込額	振込額
正会員	2,000円	4,000円
学生会員	0円	1,000円
名誉会員	0円	
賛助会員企業所属者	参加招待券ご利用で0円（但し、10月21日までに参加登録が必要）	
非会員	4,000円	8,000円

振込先 みずほ銀行 芝支店（店番号054）（普）4604392

口座名：一般社団法人植物化学調節学会大会

シヤ）ショクブツカガクチョウセツガツカイタイカイ

3-3. 要旨集 PDF

研究発表記録集（要旨集）につきまして、オンライン開催に伴い冊子体の出版を予定しません。当学会会員は参加申込の有無に関わらず、会期前に会員限定サイトからその PDF のダウンロードが可能となります。他学会からご参加される方・非会員で参加申込をされた方も、無料で入手できるようご案内します。

4. 発表申込（9月30日までの発表登録と要旨入稿の両手続完了が必要）

4-1. 発表登録

発表を希望される方は、参加登録時に届く自動送信メール内に記された発表登録フォームのリンクより、9月30日（木）までに発表登録および要旨入稿をお願いします。なお、共同研究者らを代表して登壇される口頭発表者は、原則として本学会の会員で、かつ、2022年度会費の納入者に限ります。参加申込時に入会手続き中の場合は、発表申込期日までに学会年会費の納入を完了して下さい。ただし、他学会からご参加される方は入会の必要なく、発表申込が可能です。

4-2. 要旨入稿

発表を希望される方は、発表登録フォームの上部にあるリンクからダウンロード可能な要旨の雛形 Word ファイルを用いて、本稿3ページ以降の要領に従い要旨の作成をお願いします。完成後、発表登録フォームから発表登録および要旨入稿を9月30日（木）までに行ってください。

なお、要旨集は1ページ2演題を掲載します。また、原則的に入稿されたものは体裁を変えずに PDF 化する予定で、決められた文字のポイントを用いることとし、発表タイトル・発表者・所属略称の各情報とともに、和・英文の要旨がすべて指定枠内に収まるよう要旨入稿前に各自で PDF 変換してご確認ください。

4-3. 一般講演

一般講演は、1つの会場（メインルーム）でご発表いただく予定です。発表申込数が想定内に収まれば、セッション終了後に個室（ブレイクアウトルーム）へ移動して、参加者は発表者とディスカッションができる時間をもちたいと考えています。なおその際、参加者は他の個室への自由な移動が可能です。

4-4. 特許出願に関する証明書発行

2010年3月の「発明の新規性喪失の例外規定の適用を受けるための出願人の手引き」（特許庁）の改定により、大会での発表内容に対して発表証明書の発行を必要とする場合はないと考えられますため、当学会から発表証明書は発行しません。

5. 企業イベント

ミニランチョンの代替企画として、主に賛助会員企業によるイベントを予定しています。内容は、学生の方に向けたものですが、大会の参加申込をされた方であればどなたでもご参加いただけます。

6. 口頭発表に対する表彰

秀でた口頭発表に対して賞を贈ります。優秀発表賞は、口頭発表者が当会学生会員、または当会正会員の博士研究員等であるものを対象とし、大会実行委員会が指名する数名の審査員が研究内容の優れた発表を選抜し、その投票結果をもとに大会実行委員会が決定・授与します。企業推薦賞は、全ての口頭発表を対象とし、企業からの参加者が「企業目線で興味深い」と感じる発表を選抜し、その投票結果をもとに賛助会が決定・授与します。

7. 大会実行委員会

鈴木義人（委員長）、中嶋正敏、岡田憲典、瀬戸義哉、仲下英雄、水谷正治、中村英光、朝比奈雅志、梅原三貴久、宮本皓司、近藤竜彦。〔連絡先アドレス：jscrpzoom@gmail.com〕

【一般講演】 講演要旨の作成要領

- ・Microsoft Word(Word Mac 可)で作成してください。
- ・2 ページ目の講演要旨提出様式に必要事項を記入し完成させてください。

【様式について】

- ・枠内の行間，文字間隔，フォント指定などの書式，**枠のサイズは絶対に変更しないでください。**枠内の総行数は，[演題 + 発表者（所属）+ 空白行 + 本文] で **30 行以内**になるようにしてください。**30 行を超える部分は講演要旨集に表示されない**のでご注意ください。

「演題および発表者（所属）」記入欄

- ・本記入欄は**最大 5 行**（演題 1 行+演者氏名と所属で計 3 行以内+英文タイトル 1 行）です。**5 行以内に収まる**ように作成ください。
- ・演題：日本語（MS ゴシック 10 pt）または英語（Arial 10 pt），**左揃え**で記入する。
- ・発表者（所属）：日本語（MS ゴシック 9 pt）または英語（Arial 9 pt），**左揃え**で記入する。姓と名の間は半角空ける。演者氏名の前に○をつける。所属名は本講演会の書式に準じて略記する。

「本文」記入欄

- ・本記入欄は**最大 24 行**です。
- ・本文は和文と英文込みで 24 行以内。和文なら 1 行 52 字となります。
この枠内に収まるなら、和文・英文の書量制限はありません。
- ・和文における句読点は「，（全角コンマ）」と「。」で統一してください。
- ・イタリック体、上付、下付がお使いいただけます。
- ・黒字のみで作成してください。
- ・図，表，写真，数式の挿入は不可と致します。

- ・特殊文字は全て MS 明朝フォントでお願いします。
MS 明朝フォントとして以下の特殊文字が利用可能です。
α β γ δ ε ζ η θ ι κ λ μ ν ξ ο π ρ σ τ υ φ χ ψ ω
Α Β Γ Δ Ε Ζ Η Θ Ι Κ Λ Μ Ν Ξ Ο Π Ρ Σ Τ Υ Φ Χ Ψ Ω
∞ ∞ ≡ ≠ ≦ ≧ ≪ ≫ Å ° ∼ ♀ ♂
I II III IV V VI VII VIII IX X XII ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩

- ・使用フォント：日本語は MS 明朝 9 pt，英語は Times New Roman 9 pt，**両端揃え**で記入する。
- ・**特殊文字は MS 明朝フォントのみ可**です。Symbol など他のフォントを使用した場合は，編集の際に文字化けする可能性がありますのでご注意ください。
- ・**図，表，写真，数式（数式エディターによるもの）の挿入は不可とします。**

提出方法

- ・Word ファイルを PDF ファイルに変換したものも準備し，PDF 変換により文字化けやはみ出し，レイアウト崩れ等が生じないことを確認した後，発表登録フォームより Word ファイルおよび PDF ファイルをアップロードしてください。

講演要旨提出様式

記入不要	<p>1行以内の表題を記入してください</p> <p>氏名(姓名の間半角空き)・所属の情報を3行以内に納めてください。 特に登壇者○印と括弧内に姓→名。(1所属は略記,所属英文表記は略) 区切は半角「,」か「・」使用のこと</p> <p>1行で英文タイトル(どうしても2行になる場合はポイントを適宜下げてください)</p>
7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30行目	<p>この行から和文(MS明朝 9 pt)の本文を、続いて英文(Times New Roman 9 pt)の本文を書いてください。</p>

記入不要	<p>1</p> <p>2</p> <p style="text-align: center;">ここには記入しないでください</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>5</p>
7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30行目	<p style="text-align: center;">(全角 1行 52文字)</p> <p>一三四五六七八九〇一三四五六七八九〇一三四五六七八九〇一三四五六七八九〇一三四五六七八九〇一三四五六七八九〇一三四五六七八九〇一三四五六七八九〇一三四五六七八九〇</p> <p style="text-align: center;">ここには記入しないでください</p>

講演要旨（記入例1）

記入不要	<p>2種のホルモン信号伝達制御剤 NJ15 耐性変異体の解析 田中 ナイヤネート¹, ○塩谷 輝(Shioya Hikaru)¹, 宮崎 翔¹, 細井 昂人², 田中 啓介³, 伊藤 晋作², 井内 聖⁴, 中野 雄司⁵, 小林 正智⁴, 中嶋 正敏¹, 浅見 忠男¹ (1 東大院・農生科, 2 東京農大・バイオ, 3 東京農大・NGRC, 4 理研・BRC, 5 京大院・生命) Analysis of low-sensitive-mutants for two phytohormones signal transduction inhibitor NJ15</p>
<p>【背景・目的】植物に生じる様々な生理現象の多くは、複数の植物ホルモンの相互作用を介して制御されている。各ホルモンの信号伝達過程は作用発現に近づくほど統合や分岐が発生し、それに伴って分子レベルでの過程全容解明は容易でない。NJ15 は brassinosteroid・auxin 双方の信号伝達を共に制御する化学ツールで、昨年度の本大会においてシロイヌナズナ NJ15 耐性変異体の選抜と、うち1種がクチクラ形成過程に異常を持つことを報告した。本年度はクチクラ層に隣接する細胞壁への化学的制御を行い、それに伴う NJ15 耐性状況の変化やクチクラ層への影響について焦点をあて解析したので報告する。</p> <p>【方法・結果】 細胞壁構成成分のうちセルロースおよびペクチンに着目し、それらの合成制御剤あるいは構造制御剤を用いて NJ15 耐性変異体および比較対照である野生型株にそれぞれ投与して、その影響を調べた。加えて、クチクラ層の透過性評価のため、各処理個体に対する <i>o</i>-トルイジンブルー染色も行い、NJ15 耐性との関連性を精査している。さらに、複数ある NJ15 耐性変異体を対象として、投与応答を指標とした新たな化合物スクリーニングも開始しており、その現状についても報告する予定である。</p> <p>Phytohormones are synthesized in a plant to regulate its growth and development in response to various environmental changes. Among them, both auxin and brassinosteroid positively function on cell elongation and plant growth. Therefore, several crossing points at their signal transductions have been evoked, but the common signal component(s) required for the so-called crosstalk is little uncovered. NJ15 inhibits both auxin and brassinosteroid signaling. In our previous report, we had selected a few NJ15-low-sensitive mutants of <i>Arabidopsis</i> and found one of them defective in cuticle formation. In this report, to identify the mechanism of its NJ15-low-sensitivity, we treated the chemicals, which affect cellulose or pectin, to the mutants, and evaluated the permeability of cuticle by staining with <i>o</i>-toluidine blue. Furthermore, chemical screenings with the mutants are now proceeding.</p>	

講演要旨（記入例2）

記入不要	<p>陸棲藍藻 <i>Nostoc</i> sp. HK-01 における植物生長調節物質の生産と休眠細胞の発芽制御 ○木村 駿太(Kimura Shunta)^{1,2}, 中嶋 正敏¹, 湯本 絵美³, 宮本 皓司⁴, 横谷 香織⁵, 浅見 忠男¹ (1 東大院・農生科, 2 学振 PD, 3 帝京大・先端機器セ, 4 帝京大・理工, 5 筑波大・生命環境) Production of plant growth substances and regulation of akinetes germination in a terrestrial cyanobacterium, <i>Nostoc</i> sp. HK-01</p>
<p>陸棲の藍藻(Cyanobacteria)の一種 <i>Nostoc</i> sp. HK-01 は、栄養細胞、異形細胞、連鎖体および休眠細胞に分化する明確な生活環を備えている(Kimura <i>et al.</i>, <i>Biol. Sci. Space</i>, 2017)。陸地で曝される乾燥・乾熱に対する生存維持のために、過酷環境に耐性の高いことが既に知られている休眠細胞への分化は必須であると考えられる(Kimura <i>et al.</i>, <i>Biol. Sci. Space</i>, 2015)。従って、休眠への誘導と生育環境が整った後の休眠打破は、環境の変化に伴い緻密に制御されていると考えられるが、藍藻の休眠やその後の打破を直接制御する機能物質はまだ明らかにされていない(Sukenic <i>et al.</i>, Academic Press, 2019)。他方、藍藻類において、いくつかの既知植物生長調節物質を生産している事実が報告されているが、その藍藻細胞内での機能は複雑な生長段階を備える本藍藻において、ほとんど明らかにされていない (Lu and Xu, <i>Trends Plant Sci.</i>, 2015)。しかし、既知あるいは未知の生長調節物質が本藍藻の休眠を制御している可能性が考えられる。そこで本研究では、本藍藻において休眠を制御する機能物質の構造とその機能の解明を目的として、まず本藍藻の既知植物生長調節物質の生産能確認を目指した。液体培養で得た藻体を、常套法で抽出・精製し、内部標準を用いて LC-MS/MS 分析に供した。その結果、複数の既知物質が MS レベルで検出された。今後、生活環の各段階に応じた内生量変化が認められるか解析を進めていく予定である。また、休眠細胞の発芽過程を経時的に顕微鏡観察することで、植物生長調節物質に対する応答を調べる本藍藻に適した実験系を新たに確立し、改善を図っている。この進行状況についても併せて報告したい。</p> <p>The terrestrial cyanobacterium <i>Nostoc</i> sp. HK-01 has a life cycle with several different types of cells: vegetative cells with photosynthetic abilities, heterocysts with nitrogen fixation abilities, motile hormogonia, and dormant akinetes (Kimura <i>et al.</i>, <i>Biol. Sci. Space</i>, 2017). Akinetes can revive after droughts (Kimura <i>et al.</i>, <i>Biol. Sci. Space</i>, 2015). The detailed mechanisms of dormancy and germination have not been investigated (Sukenic <i>et al.</i>, Academic Press, 2019). Plant growth substances are produced not only by higher plants but also by moss, algae, and cyanobacteria groups. The production abilities of plant growth substances in several cyanobacterial species were reported, although the activities of these substances in cyanobacterial cells were not shown (Lu and Xu, <i>Trends Plant Sci.</i>, 2015). Plant hormones and/or novel substances can play important roles in the dormancy or germination of cyanobacteria. In this study, we evaluated the existence of plant growth substances in a terrestrial cyanobacterium, <i>Nostoc</i> sp. HK-01, and detected several substances. We discuss the physiological functions of these substances for the regulation of germination of akinetes of the cyanobacterium.</p>	